



ニラを飛ばして、世界記録に挑戦

(10月30日

産業文化祭)

平成22年度各会計決算の認定

・ 条例案件・補正予算 ②

町長の所信表明 ③

論点 Q&A そこが知りたい ④～⑤

一般質問7人 ここが聞きたい ⑥～⑫

第3回臨時議会・広報研修報告 ⑬

傍聴席から一言・子ども議会 ⑭

平成22年度 決算

9月定例会

平成22年度各会計歳入歳出決算額

会計の名称	歳入	歳出	差引額
一般会計	58億3,699万円	55億3,907万円	2億9,792万円
国民健康保険	16億6,965万円	15億9,812万円	7,153万円
老人保健	577万円	577万円	0円
介護保険	12億214万円	11億5,959万円	4,255万円
後期高齢者医療	1億2,582万円	1億2,448万円	134万円
住宅新築貸付	26万円	9万円	17万円
合計	88億4,063万円	84億2,712万円	4億1,351万円

水道事業会計決算額

収益的収入	1億4,031万円	収益的支出	1億2,750万円
資本的収入	4,597万円	資本的支出	1億910万円

9月定例会は、12日に開会し、15日までの4日間の審議を行った。初日に、二期目となる奥名町長の所信表明があった。案件は、平成22年度一般会計ほか、各特別会計歳入歳出決算及び水道事業会計決算の認定、報告案件1件、条例案件2件、平成23年度一般会計及び特別会計補正予算案件4件、議会広報編集特別委員会の研修報告、その他の案件が上程され、全て原案どおり可決した。なお、一般質問には、7人の議員が登壇し、町政全般について質問した。

決算の認定

平成22年度一般会計歳入歳出決算の認定については、賛成9人、反対1人で認定した。

歳入歳出差引額が2億9792万6044円となり、これから翌年度へ繰り越すべき財源4681万9000円を差し引いた実質収支額は、2億5110万7044円である。

このうち財政調整基金への繰入額は1億2600万円となる。

そのほかに、

国民健康保険、老人保健、介護保険、後期高齢者医療、住宅新築資金等貸付の各特別会計歳入歳出決算及び水道事業会計決算についても、認定した。

条例案件

甲佐町暴力団排除条例の制定

町民の安全で平穏な生活及び経済社会の健全な発展に寄与するため本条例を制定するもので、全会一致で可決した。

甲佐町熊本県収入証紙購入基金条例の制定

旅券法に基づく旅券（パスポート）の申請受付・交付等に関する事務の権限委譲に伴い本条例を制定するもので、全会一致で可決した。

一般会計補正予算

4662万2000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ、59億1565万1000円とする補正予算を全会一致で可決した。主なものとして、

①コミュニティ助成事業補助金 449万9000円

②熊本県収入証紙購入基金積立金 100万円

③敬老事業助成金 183万円

④共同活動支援負担金 662万2000円

⑤向上活動支援補助金 803万5000円

⑥先進的営農活動支援負担金 239万9000円

⑦林道本坂合線横断側溝布設工事費 575万円

⑧防災用井戸さく井工事 300万円



新たな目標・4本の柱

4つの町づくり方針を基本として、「甲佐町再生・セカンドステージ」をスタート

奥名町長の所信表明要旨



奥名町長

1 活力に溢れ、にぎわう町づくり

- 県道及び道路整備5ヶ年計画に基づく町道の計画的整備促進
- 民間活力による宅地開発の促進及び町有地の有効活用
- 企業誘致活動推進の継続
- 農業生産基盤の整備と各種団体との相互協力による耕作放棄地解消
- 商店街の活性化に向けた支援と特産品開発に伴う「加工施設」の整備
- 清流「緑川」の再生と広域交流型施設整備の検討及び小型合併浄化槽の普及率を今後10年間で70%に
- 広域連携による観光ルートの開発及び観光資源の掘り起こし



2 自然環境と共生し、安心安全に暮らせる町づくり

- 町内の水害対策の本格的検討
- 防災行政無線や光ブロードバンドを活用した危機管理体制の強化
- 消防団組織の再編強化及び自主防災組織の拡充
- 町営住宅の計画的整備
- 災害時を想定した乙女地区の水道水源確保の検討
- 個人住宅の耐震補強工事に対する町の支援
- 個人住宅への太陽光発電施設設置の普及に向けた町の支援

3 人を育み、交流する町づくり

- 子育て支援策の充実（子ども医療費助成と保育料軽減措置の継続・子育てサロンの開設）
- 各種健診の受診率向上に向けた環境整備及び子宮頸がんワクチン接種への補助
- 高齢者や障がい者等の見守りネットワーク体制の整備
- 促進及び敬老会事業への毎年度助成と新たな節目の祝い制度の創設
- 教育施設の計画的整備及び

4 みんなで協働して支える町づくり

- 各小中学校の空調施設整備
- 甲佐高校の「特色ある学校づくり」のための支援
- 郷土愛を育むための道徳教育の充実並びに自然体験・体験道場・子ども議会の実施

- 町職員の資質向上（国や県との人事交流・職員研修の充実など）
- 町職員の地区別担当者制度の創設
- 情報公開の更なる拡大
- 一部事務組合の更なる広域化（特にごみ処理施設や火葬場）
- 部落行政交付金や原材料支給等の交付要項の見直し（地域活動の財源として一括交付金化）
- 男女共同参画社会の推進に向けた女性委員の登用率の向上
- 各種委員会等の費用弁償額の適正化
- 光ブロードバンド普及に伴う公共アプリケーションの展開推進
- 地域の活性化に向けた新たな制度による支援活動の実施（地域おこし協力隊の設置）

そこが知りたい! Q&A

SOKOGA SHIRITAI

9月定例会 質疑より

国民健康保険税について

Q 国民健康保険税は、年間一人当たりどの位納めているか。

また、不納欠損処分がなされているが対象はどんな方か。

A 平成22年度での納入額は、医療費と支援費分および介護分を合わせて9万6231円である。

不納欠損対象者は生活困窮者、行方不明の方、死亡者等の方で、22年度は22件不納欠損とした。

コミュニティ助成事業(宝くじ助成事業)について

Q 平成23年度コミュニティ助成事業が予定されているが、事業場所と事業内容は、

事業場所と事業内容は、

A 西寒野地区及び岩下二区地区の二

か所である。

西寒野地区では、3500㎡位の土地に、グラウンドゴルフ場的な広場造成とベンチ等を設置。

岩下二区では、大井手川の左岸に花のプランターを110基設置される。



コミュニティ事業で設置された花のプランター

地域おこし協力隊について

Q 地域おこし協力隊の新規事業はどのような内容か。

隊の新規事業はどのような内容か。

A この事業は、人口の減少や高齢化の進行が著しい地方に地域外の人材を積極的に誘致、定住、定着を図ること

で、都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持、強化に資する取組みとして、総務省が推進

している事業である。

町は、平成24年度から26年度まで、年3人ほど町外から受け入れ、住民

消防の機能別分団について

Q 役場内に機能別分団をつくられた

がどのようなことか。

A 人口の減少、少子高齢化、勤務の

関係で消防団員の減少は全国的な問題であり、災害時、また、平日、昼間の消防力の低下が懸念さ



機能別分団が使用する小型ポンプ付積載車

票を移して地域の活動に協力していただくことにしている。

事業費は特別交付税措置で賄うとのことである。

れるため、本町では機能別分団が結成された。

機能別分団とは、能力や事情に応じて、特定の活動のみに参加する消防団員のことである。

役場内に町外から来ている職員10名をもって結成された。

敬老会について

Q 敬老事業に毎年助成されるようになったが、該当者は何人か。

また、一人当たりの助成額はどれくらいか。

助成先はどこか。

A 該当者は70歳以上の方であるが、

現在で3050名を予定している。

助成額として、一人当たり600円としている。

助成先は、地区で開催の場合は、各地区の社会福祉協議会へ、行政区で開催の場合は、各行政区への助成となる。

タバコ税、ゴルフ場 利用税について

Q 市町村タバコ税、ゴルフ場利用税の収入について、過去の税額はどのように変化してきているか。

また今後の見込みをどう見ておられるか。

A 市町村タバコ税については、平成20年度7023万5000円、21年度6284万3000円、22年度6410万2000円となっている。

ゴルフ場利用税については、本町にあるゴルフ場から利用税として納められた税が県に納入され、その7割が町に利用税交付金として交付される。

平成11年度では、2216万6000円あったが、その後減り続けて21年度は957万4000円、22年度は増加して1078万9000円となった。

今後の見通しとして、タバコ税については22年10月に値上げがあり、売上本数も減っており減少の可能性はある。

ゴルフ税については、経済状況の影響に左右されるので予測は難しい。

付金として交付される。

学校給食の食材について

Q 学校給食の食材については、以前、地産地消の方向で進



学校給食の食材に使われている甲佐町産ニラ

めるといつていたが進み具合はどうか。

A 食材として使用するには、まず、安定的な品の供給ができるか、安全安心な食材か、などをクリアしなければならぬ。

現状では、甲佐町産食材として米飯給食の米及びニラ、スイートコーンについて使用しているが、他の食材については進んでいない。

しかし、食材納入業者の方には、なるべく県内産又は九州の近い産地からの食材を納入していただくようお願いしている。

シルバー人材センターについて

Q シルバー人材センター運営補助金の使用方法やセンターの運営状況は怎么样了なっているか。

A 運営補助金100万円については、人材センターの事務職員の人件費である。

運営状況は22年度末で会員64名、延べ数は784名である。

受注件数は575件で、受注額は1177万9450円となっている。

(19年度1079万8676円、20年度1189万1700円、21年度

1241万3195円)

Q 仕事の依頼をしても受注できなかったと聞いているが。

A 今後は、依頼者に対して丁寧な説明を行うよう指導した。

町債について

Q 平成22年度末の町債の現在高及び起債別残高はどのくらいあるか。

A 68億5600万円ある。

内訳は過疎対策債32億円(額の70%が交付税の基準財政需要額に算入さ



道路整備の財源にも町債が使われている

れる。)、臨時財政対策債18億6000万円(100%が交付税に措置される)、残が他の起債額である。

予算の流用について

Q 22年度一般会計収支決算書において、流用ができないことはないが件数が多い。どのような判断で認めているのか。

A 予算の流用は原則的にあまり好ましいことではない。緊急、または、やむを得ず予算に過不足が生じた場合に流用をしている。

Q 緊急性のない流用もあっている。予算化して執行するべきでは。

A 予算立てを的確に行い、なるべく流用がないようにしたい。



タバコ自動販売機

一般質問と答弁

～ここが聞きたい!～



山内 勲 議員



道路整備5ヶ年計画について

山内議員

道路整備5ヶ年計画について、その進捗状況と新たに2路線が追加された理由をお聞きしたい。

西坂建設課長

進捗状況としては、整



改良工事が望まれる町道吉田県道線

備計画登載の13路線中、完了が1路線、事業継続中が3路線である。追加した2路線は町道上揚井戸江線と町道田口杉上線で、理由としては、地元からの要望があり、道路整備計画策定委員会の審査を経たうえで新たに登載した。

山内議員

町道吉田県道線の整備の見通しについてお尋ねしたい。

西坂建設課長

町道吉田県道線は、吉田集落内を起点に水田地帯を経由し、芝原の松本

農業の振興について

山内議員

石油店付近の県道嘉島甲佐線を終点とした路線で、道路整備計画の中のDランクとして登載されている。現在、事業推進中の路線の早期完成を目指しており、事業着手については、これらの進捗状況などを勘案しながら、慎重に判断したい。

農業を取り巻く情勢は依然として厳しいものがあるが、本町農業の現状と課題についてお尋ねしたい。

本田産業振興課長

本町の農業は、緑川の豊富な水資源を利用し、良質な米を中心に花卉・花木・野菜・果樹・葉たばこなどを組み合わせた複合経営が行われている。

平成21年度の上益城農協と花卉農協での販売額は、水稲が1億2100万円、野菜はスイートコーンが9600万円、

ニラが1億900万円、畜産は酪農が9800万円、繁殖牛が4800万円、果樹はミカン・クリ・モモで7300万円、タバコが1億2400万円、花卉は2億7600万円となっている。課題としては、農業従事者の高齢化や減少に伴う食料自給率の低下、併せて耕作放棄地増加の問題がある。

山内議員

本町の農・商業振興の起爆剤となる特産品開発については大きな期待を持っている。

この事業は、3か年計画で、その間約1900万円余りの予算を使つての研究開発である。

そこで、最終年度となる本年度の進捗状況についてお尋ねする。

本田産業振興課長

平成21年度の地域資源や住民意識調査をもとに、鮎やニラなどを使った試食品づくりを行つている。

現在、新規特産品に向けた試作品として、鮎の

期待される特産品開発



煙製、鮎の一夜干し、ニラを使ったアラレ、ニラの焼き饅、ニラの佃煮、ニラのふりかけ、乾燥ニラ、スイートコーンジャム、キンカンゼリーなどがある。

今後、食品関係の専門家を入れたブランド認定組織を設立し、販売戦略を含めた認定制度の審査会を立ち上げ、町が進める特産品はオープン商品として、また、ニラめんこなどの既存のものも特産品として申請していただき、それを認定したうえで販売を行っていくというような二本柱で進めているところである。

宮川 安明 議員



町政全般について

宮川議員

32項目のマニフェスト

の中で、町職員の資質向上に関してお尋ねしたいが、その中で前回のマニフェストの時に、職員に対して指導、助言をどのようにしたかお聞きしたい。

甲斐総務課長

毎週金曜日の行事調整会議の中で、文書と口頭による指導を行っている。

宮川議員

保育料の徴収の間違ひについて新聞紙上に出たように、不祥事が起きたことは事実であるが、起きた時に大切なのは、再発防止にどう取り組むか

ではないかと思う。

不祥事が起きたときの職務規定を整える時期にきたと考えるがその点についてお尋ねしたい。

甲斐総務課長

5月に職員の不祥事があり、過去の事例等により処分したが、今回その処分の規定及び公表の規定を策定した。

宮川議員

現在、長期に渡り休養している職員がいるかお尋ねしたい。

甲斐総務課長

平成22年度中で、入院をしたもの、または、2週間に1回は通院をしている20代から50代までの職員が7名である。

宮川議員

7名ということですが、少くはないと感じるが、職員の資質向上をやっている中でこの問題は避けて通れないと思う。

この方々がそういう風に休まれては役場全体の人員構成がおかしくなるのではと考え、新卒採用

も一つの方法であるが、企業の第一線で活躍されている人をヘッドハンティングしてはどうかと考えるがこれについてお聞きしたい。

師富副町長

町にとつても有利な人材の確保と組織力の強化などのために、企業等におけるこれまでの経験を町政に生かせる人、問題解決能力やプロジェクト執行能力等を備えた即戦力となる人など、先進事例を参考にしながら民間企業等職務経験者の採用を具体化していく必要があると考える。

農業問題について

宮川議員

農業者戸別所得補償制度についてお聞きしたいが、その中でWCSの状況をお聞きしたい。

本田産業振興課長

所得補償制度が始まる前の平成21年度は、作付けが30・6ヘクタールで金額にして918万円。制度が始まった平成22年度は、44・15ヘクタール



WCS (稲発酵粗飼料)

(前年比144%)で金額3532万円と大幅に伸び、本年度は64・9ヘクタールで金額は5192万円となっている。

宮川議員

WCSの反当たり8万円が非常に魅力だと考えられるが、WCSの問題点というか、耕畜連携で成り立つ中で、畜産農家の現状をどのように把握されているかお尋ねしたい。

本田産業振興課長

昭和61年の畜産統計で比べると酪農家が43戸から18戸、繁殖農家131戸から10戸と激減している状況である。

宮川議員

畜産農家の数が非常に少なくなっている。

本町では、以前家畜導入事業があつたが、現状は機能していない。時代に合ったものに変えるべきだと思つた。

また、畜産農家が廃業すると、その農地が耕作放棄地となる見方もできるが町長の考えをお聞きしたい。

奥名町長

国の制度であるが、この制度が今後も続くならば農家の所得向上と耕作放棄地の抑制、解消につながるかと理解したが、本町においてはどのように支援したが一番いいか調査検討をしたい。

※WCS (稲発酵粗飼料)

完熟する前の稲穂と茎葉を同時に収穫し、ラッピングして発酵させた牛の飼料。

教育問題について

宮川議員

教育長の甲佐町の教育に関する考え方についてお尋ねしたい。

赤星教育長

甲佐町の教育の姿は、

中学校3年の3月の姿であると考え、その日に子どもたちに笑顔で迎えさせ、自分の目指す道のために高校等に旅立たせたい。

そのために、学力と困難を乗り越える力、思いやりのある道徳性を身につけさせ、知・徳・体にバランスのとれた子どもたちに育てることが必要であると考える。

宮川議員

中学校建設で工事をしていることで学校行事、または、部活動に支障がないかお聞きしたい。

村上学校教育課長

学校行事の中で大きなものというと、入学式、卒業式と合唱コンクールがある。

現在、トレーニングセンターを利用して行うこととしているが、トレーニングセンターにはステージがないため、リース会社等と学校側と協議しながら対応したい。

部活動については屋内の運動についてはトレーニングセンターを利用している。

本郷昭宣 議員



男女共同参画について

本郷議員

平成11年6月に男女共同参画社会基本法が制定され、共同参画推進については、21世紀の最重要課題として、社会のあらゆる分野において実現を図ることが重要であると述べられている。

甲佐町でも、平成23年3月に甲佐町男女共同参画計画書が作成され、「男女が自立し、支え合う住みよい町」に向けて取り組んでいるが、どのような取り組みをされているのか。

また、町では委員会等に女性委員の登用はどうなっているか。

奥名町長

男女共同参画の実現のため、甲佐町でも男女共同参画計画書を作成したが、男女が支えあつて適所で活躍できる場を考えた。

また、第6次総合計画の前期目標で、委員会への女性登用率を20%まで引き上げたい。

豊田住民生活課長

女性登用率は21年度9・2%、22年度17・1%、23年度18・3%となっている。

男女参画に対する取り組み状況は、平成21年9月に課長等を委員とする男女共同参画推進懇話会を設置。

広く住民の意見を取り入れた計画書を平成23年に作成し、全世帯へ配布した。

男女が共に自立し、支え合う住みよい町の実現に向け、啓発、広報活動を今後とも、推進していきたい。

通学道路整備について

本郷議員

町道糸田学校線は白旗小学校の通学道路に指定され、上白旗の児童の通学路になっている。

この道路は、十数年前に町より原材料支給を受けて、部落でコンクリート舗装をした道路である。

しかし、素人で施工した関係で、路面の調整も不十分で凹凸もあり、片勾配の所もある。

だいぶ年数も経ち、ひび割れ、陥没の箇所等もあり、児童の通学に危険を感じているので再舗装の必要があると思うが。

西坂建設課長

この道路は、中早川、早川、北早川、糸田地区

の白旗小学校の児童の通学路となっている。

総延長2025mの路線で、終点側600mは整備されているが残区間については舗装が壊れたり、凹凸の箇所が多く見られる。

他の路線等の整備状況等も勘案し十分検討したい。

本郷議員

町道改良により、町道糸田学校線と新設の松ヶ崎妙見谷線が交差することになるが、児童の交通および防犯上の安全を図るため学校、保護者と協議されたか。

また、交差点付近を速度制限はできないか。

西坂建設課長

学校、保護者の方々と2回ほど協議を行い、

ボックスカルバートの暗渠部分については照明を付け、また道路部分については横断歩道を考えている。

古荘くらし安全推進室長

速度制限については、公安委員会が担当しているので、交差点協議の時点で事前に相談したい。

本郷議員

緑川の再生ということ

家庭排水の浄化について

本郷議員

緑川の再生ということが掲げられているが、緑川の清流を取り戻すことは、町民誰もが望んでいることと思われる。

河川の汚濁はダムの関係もあると思うが、家庭からの排水も一因と思われる。

緑川の清流は流域の町々が取り組まなければ解決しないと思うが、上



緑川の水質浄化を

流の町の取り組み状況は、また甲佐町の浄化槽普及率はどうなっているか。

一圓環境衛生課長

上流二町は、合併浄化槽設置で家庭排水の処理をされている。

甲佐町では、合併浄化槽で推進を図っているが、平成21年度末現在で普及率38・8%となっている。

本郷議員

県下で普及率が最も低いとのことであるが、普及率の向上を望む。



再舗装が望まれる通学道路

荒田 博議員



御船甲佐クリーンセンターについて

荒田議員

前回の質問では、ゴミ処理場が建設後約20年、火葬場が建設後34年経過しており、火葬場においては、建物の耐用年数が38年であると残り4年とお聞きした。

その後組合等で進展があったかお尋ねしたい。

一 環境衛生課長

先般、9月1日に御船町甲佐町衛生施設組合の議会があり、その後、奥名組合長他17名で、宇城広域連合が運営している火葬場「龍燈苑」に視察研修に行った。

宇城市の不知火町にあ

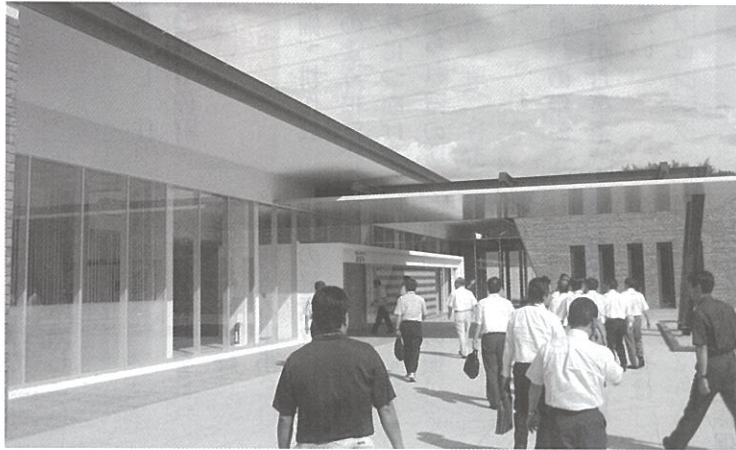
り、鉄筋コンクリート造りで、敷地面積は1万4714㎡、建築面積が2224㎡、火葬炉は4基（予備基が1基）あり、一日に8体の火葬ができる施設であった。

また、従来の火葬場のイメージではなく、ガラス張りで大変明るい造りであり、今後施設整備を検討するうえで大変参考となった。

奥名町長

具体的に前回からの進展はあっていない。

ただ、マニフェストの中でも一部事務組合の更なる広域化ということ掲げているが、本町単独ではなく御船町と一緒に運営してい



視察を行った宇城広域連合の火葬場

る関係上、火葬場だけを先行して建設することは難しいと判断している。

御船町のほうでもいろいろ検討されている。

今後、衛生施設組合と両町の三者の十分な協議を重ねながら、並行して早い時期に解決しないといけない事柄として対応したい。



る関係上、火葬場だけを先行して建設することは難しいと判断している。

御船町のほうでもいろいろ検討されている。

今後、衛生施設組合と両町の三者の十分な協議を重ねながら、並行して早い時期に解決しないといけない事柄として対応したい。

学校教育について

荒田議員

学校教育について現状をお聞きしたいが、何を基準として判断すべきか難しいので、今回は、学力検査NRTの資料を基に本町の中学生の学力が郡内、県内でどのくらいかお尋ねしたい。

村上学校教育課長

教育委員会としては、県内または郡での甲佐中学校の順位は把握していない。

NRTの標準学力検査に基づいて、全国とのレベル比較をしながら課題等を見つけている。

このNRTの検査は、日本で最も多く実施されている学力検査であり、妥当性・信頼性が確保されている検査である。

この検査では、全国の平均より下がる傾向があるので今後の課題として受け止めている。

荒田議員

学力が良いのいいと判断するのは、安易的な考え方であるが、当然全

国標準よりは上回るように指導していただいた方がいいと思う。

本町において、中学校を含めて特別に力を入れていくことをお聞きしたい。

赤星教育長

今の課題を考えると、教員をどう育てていくか、子どもたちに向かい合わせていくか、そして、まず甲佐町の職員であるという自覚を持たせたいと考えている。

村上学校教育課長

本町では、毎年小中学校の中から2校を、町指定の学力推進校に指定しており、年額40万円の助成をしている。

また教職員では、毎月、教頭研修会、中堅教員等の研修会を開催し、

教員の資質向上や生徒の指導、児童生徒の学力向上に向けて研修を行っている。

加えて、甲佐町のすべての教職員を対象に、夏休みの期間を利用して、甲佐町教職員全員研修会を行っている。

山内社会教育課長

社会教育課においては、特に子育て支援で、子どもたちに対して学校と連携した取組みを行いたいと考えている。



甲佐町教職員全員研修会

西坂和洋 議員



税金の未納額等について

西坂議員

税金の未納額の総額と未納者数をお尋ねしたい。

伊豆野税務課長

平成22年度においては、個人町民税は254件の707万4655円、法人町民税は5件の



税務課の夜間窓口

25万円、固定資産税は317件の1535万8575円、軽自動車税は185件の121万3000円、町税の計が761件の2389万3530円となっている。

これに、過年度分を含めると、町税の未納額の合計は、2989件の1億2824万6344円となる。

西坂議員

高額滞納者で、100万円以上の方は何人おられるのか。

伊豆野税務課長

平成22年度の決算において、町民税、国民健康保険税を含めたすべての税目で100万円以上の滞納者件数は50件である。

西坂議員

その中で、最高滞納額はいくらになっているか。

伊豆野税務課長

約2000万円である。

西坂議員

昨日の代表監査委員の報告では、町全体の滞納及び未収金の額が4億1900万円あった。

この額は、一般会計の予算が58億円として、大きい金額と考える。

各会計の財政運営にも影響しかねないといわれており、町長の考えをお聞きしたい。

奥名町長

滞納問題に関しては、非常に頭の痛い問題だと認識している。

これまでもご説明しているが、取納率向上対策本部会議を定期的に開催し、情報の共有化を図りながら、平成22年5月から、複数の近隣市町と一緒に併任徴収の形をと

り、滞納整理の強化を行っている。

また、県への徴収引継ぎ等も活用し、その結果として、差押えとか公売も行っている。

それにより、365万1000円の自主納付もあっており、今後の対応としては、滞納処理の強

化を図るとともに、住民の納税意識に関し、広報活動なども一つの手段として、一生懸命取り組みが必要がある。

西坂議員

国民健康保険税の内容をお聞きしたい。

豊田住民生活課長

平成22年度の収納率は、91・93%で収入未済額が2342万8141円、これに、滞納繰越分の1億4409万5501円がある。

西坂議員

滞納については、何年前からの分があるのか。

伊豆野税務課長

昭和63年度分の6717円が一番古い滞納額である。

給食費の滞納について

西坂議員

給食費の滞納の有無、また、滞納者数と滞納額をお聞きしたい。

村上学校教育課長

平成23年3月末において、給食費の未納はある。22年度の未納額は、30

万2150円、それ以前の過年度分は53万3490円で、合計の83万5640円となっている。

赤星教育長

給食は、子どもたちに昼食を与えるということではなく、教育指導の一環であり、教育の場である。

滞納があるから、子どもたちの給食を止めるということは絶対にしてはいけないことだと考えている。

ただ、滞納はなくしていく必要があるので、学校から保護者へ納付のお願いをし、それでも納付がない場合は学校長自ら対応をしている。

西坂議員

県道三本松甲佐線の支障木の伐採について、県の土木部へのその後の対応についてお尋ねしたい。

西坂建設課長

民有地については、基本的には所有者の方へ処理をお願いするということになる。

しかし、所有者の方ではどうしても処理できない場合は、県が処理を行うことになる。

町民の方から通行の妨げになると連絡を受けたら、その都度、県へお願いしている。



町営バスの屋根をこする支障木

県道三本松甲佐線の支障木の件について

平成23年第3回臨時議会

7月22日に、第3回臨時議会を開催した。

○甲佐中学校の校舎改築工事に係る請負契約の締結
賛成多数で可決

契約金額 14億605万5000円

契約の相手方

福岡市中央区白金2丁目13番12号

戸田建設株式会社 九州支店

支店長 安達 勇

契約の方式

総合評価方式の条件付き一般競争入札

○平成23年度一般会計補正予算(第2号)

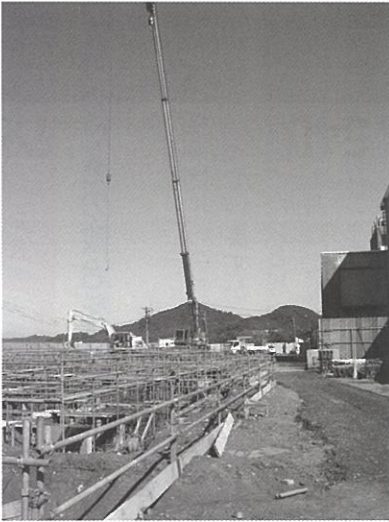
181万8000円を増額し、歳入歳出予算の総額を58億6902万9000円とする補正予算を全会一致で可決した。

・下豊内公民館改修事業補助金

49万2000円

・林業施設災害復旧事業

132万6000円



甲佐中学校の校舎建設

議会広報編集特別委員会研修報告

佐賀県白石町議会の議会広報について、去る7月25日に視察研修を行いました。

白石町は、佐賀市中心部から25km圏内に位置し、平成17年1月1日に旧白石町、旧福富町、旧有明町が合併し誕生した町で、面積は、99.46km²、人口は、平成23年3月末現在25,916人、世帯数は7,662世帯となっています。

議員定数は18人で、議会だより編集特別委員会(編集委員は5人)を組織され、合併により平成17年5月に創刊、本町と同じく定例会ごとに年4回の発行で、現在で26号を重ねられています。

編集については、紙面の内容と分担割当てや校正のための編集委員会議を2回程度開き、一般質問については、まず質問を録音したCDを質問者に配布し、定例会閉会日までに千字程度にまとめた原稿を提出してもらい作成しているとのこと。

仕上がりは、本町とかなり似かよっており、印刷も基本は2色刷りで、表紙及び最終ページのみカラーによる印刷でした。

作成については、町民が見やすく、分かりやすい広報紙に”ということ、文字サイズは本町と比べひとまわり大きく、各議会の議決結果なども掲載されるなど、各委員の工夫や熱意が感じられました。

今後とも、この研修を活かし、更に研鑽を積んで、わかりやすく、多くの人に親しんで読んでいただけるような広報紙づくりに努めていきたいと思っています。



鳥取県智頭町議会からの視察研修

10月26日に、鳥取県智頭町議会から視察研修のため来町された。

12人の議員全員で構成する「輝く町づくり調査特別委員会」によるもので、本町での研修は、

○若者の定住促進について

○小学校・中学校の建設についての二点の事項についてであった。

本町からは、本田議長、本郷総務文教常任委員長、宮川産業厚生常任委員長、師富副町長及び担当部署の課長等が対応した。

定住促進については、本町が平成12年度に制定した、「甲佐町定住促進要綱」を中心に説明し、学校建設については、執行部としての推進の方法、また、議会としての関わり方などを説明した。

なお、定住促進については、下横田の緑川団地を現地視察された。



智頭町からの視察研修

傍聴席から一言

「住民のための政治を望む」

岩下1区 松永 憲二

私は、平成15年の3月議会から約8年間、議会の傍聴に行っていますが、その中で私の感じたことを素直に述べたいと思います。

現在の議会の議員定数は12名で、1名が女性、残り11名は男性ですが、女性議員の発言率は高く、男性議員の発言率をかなり上回るものです。それに、発言の回数が多いということは住民の代弁者として発言されていた、ということだと思います。

ところで、一番大事なことは、住民の代弁者であるべき当時の複数の町議会議員が、町税や水道料金を滞納しており、あつてはならない事です。

この問題が初めて報道されたのは、平成19年の町議選の前であり、それから平成22年12月3日に開示された公文書により、平成22年度上半期に町税等を滞納された議員は、最少の場合5名、ということでした。

但し、議会による調査が行われず、滞納の実態が明らかにされなかったため、当時の前議員全員の滞納の可能性が否定されなままになっているという事で、町民はもとより他町の人達も甲佐町議会に対して不信を持たれたことでもあり、甲佐町議会の恥ではないのでしょうか。

ましてや、その様な議員を選んだ甲佐町町民、皆の問題となるということでもあります。信用を失うことはたやすいが、信用を勝ち取ることの尊さがいかに難しいのかを伺い知ることとなります。

今後は、全幅の信頼を勝ち取るべく、町議会議員の方のご尽力をご期待いたします。

平成23年第3回子ども議会

10月13日(木)に、甲佐中学校の生徒18人と町執行部による「第3回子ども議会」が開催された。

町の将来を担う生徒たちに町政に関心を持つてもらうと、町が一昨年から始めた。

当日は、3年の蘭田正樹君と梅本龍太君が議長、副議長役(途中交代)を務め、一般質問を行う議員役には、そのほかの2、3年の生徒16人が当たった。

質問の内容については、身近な課題についての質問が多く、中には再質問、再々質問を行う生徒もいた。

質問者は次のとおり。

- ① 2年 井芹 榎吾くん
- ② 2年 舩田 実優さん
- ③ 2年 荒田 蓮斗くん
- ④ 2年 渡辺 鈴香さん
- ⑤ 2年 渡辺 大智くん
- ⑥ 2年 伊豆野夏実さん
- ⑦ 2年 本田 智成くん
- ⑧ 2年 山崎 大輔くん
- ⑨ 2年 西坂 遥香さん
- ⑩ 2年 米原沙耶香さん
- ⑪ 2年 喜讀 太一くん
- ⑫ 3年 永田 美智さん
- ⑬ 3年 東 貴子さん
- ⑭ 3年 児成 憲佑くん
- ⑮ 3年 米田昇汰郎くん
- ⑯ 3年 坂本 涼くん



子ども議会の様子



編集後記

白旗山の木々も色つき始め、いよいよ秋も深まり今年も残すところわずかになりました。

先だって、「子ども議会」が開かれました。

18名の中学生が、町長はじめ町の執行部との間で、町の施策について議論が交わされ、私たち議員も中学生による鋭い意見に感心させられました。

なかでも、緑川をきれいにしようという環境と景観に対する意識の高さには驚きました。

現在、全町民あげて4月に清掃活動を行っていますが、さらにこの活動を増やし、そして川をきれいにしようという意識の啓発が広がれば、清流「緑川」の復活につながるのではと思わされる中学生の意見でした。

議会広報編集特別委員会

- 委員長 本郷 昭宣
- 副委員長 井芹しま子
- 委員 西坂 和洋
- 委員 福田 謙二
- 委員 荒田 博